

- ✓ “24時間人工呼吸器が必要”といった、**重度の子どもが「在宅ケア」を受けられる環境づくり**を先駆的に推進している。
- ✓ **地域の学生ボランティアが学校でサークルを結成**。10年以上にわたり代々の学生たちが子ども向けイベントで活躍している。
- ✓ 「**喀痰吸引3号研修**」で**医療的ケアが行える人材**を育成。医療と介護、地域とのネットワーク形成にも積極的に取り組んでいる



これまでの経緯

施設のあらまし

- 1993年、人工呼吸器が必要な女の子の在宅介護を支援するため、看護師や地域の方によるエリナファンクラブ（EFC）が誕生。後にNPO法人へ。

個人的な組織から法人へ

- その後、有限会社を設立し、2011年に「訪問看護」「介護」「放課後等デイサービス」を行う現在の法人へ移行。主に東京都内の16区内で障がい、難病、医療的ケアが必要な子どもとその家族の生活を支えている。
- 公的制度ではサポートできない様々な実費サービスにも対応している。

地域で一緒に楽しめるイベントを実施

- 医療的ケアのみならず外出や遊びの機会も創出。例としてアクティビティプロジェクトを月1回開催。知的障がいの子も人工呼吸器の子も、兄弟も一緒に集まって交流する。これは学生ボランティア等、総勢50名ほどが「音楽」「調理」等で楽しませている。会場はパルシステム東京が提供している。

3号研修を実施してスタッフを育成

- 当法人では吸引等の医療的ケアに慣れたスタッフが揃い、3号研修にも積極的。先日は区の職員相互研修があり、2日間、区職員が訪問スタッフに同行するなど啓蒙活動にも貢献している。

支援内容・取組の工夫

取組が生み出す効果

情報共有で全方向的なケアへ

- 医療的ケア児のサポートには、従来のように専門家がそれぞれの分野縦割りではなく、介護と医療や、福祉関連、保育士など、専門家だけでなく子どもに関する人みんなで情報共有することが重要。

スタッフが安心して働けるように

- ヘルパーは医師からの指示書以外のことは出来ない。現実に即したケアをするために、指示書の記入方法を医師に工夫してもらおうよう、記入例を当法人から伝えられている。このように、これまで当法人が経験した問題解決策やノウハウを、他の団体へも発信したい。